

## 平成22年の福岡県鉱工業指数の動向

### 1 概況

(1) 業種別動向（全18業種・主要業種の動向はp.5以降を、全業種の推移はp.14以降を参照）

① 生産

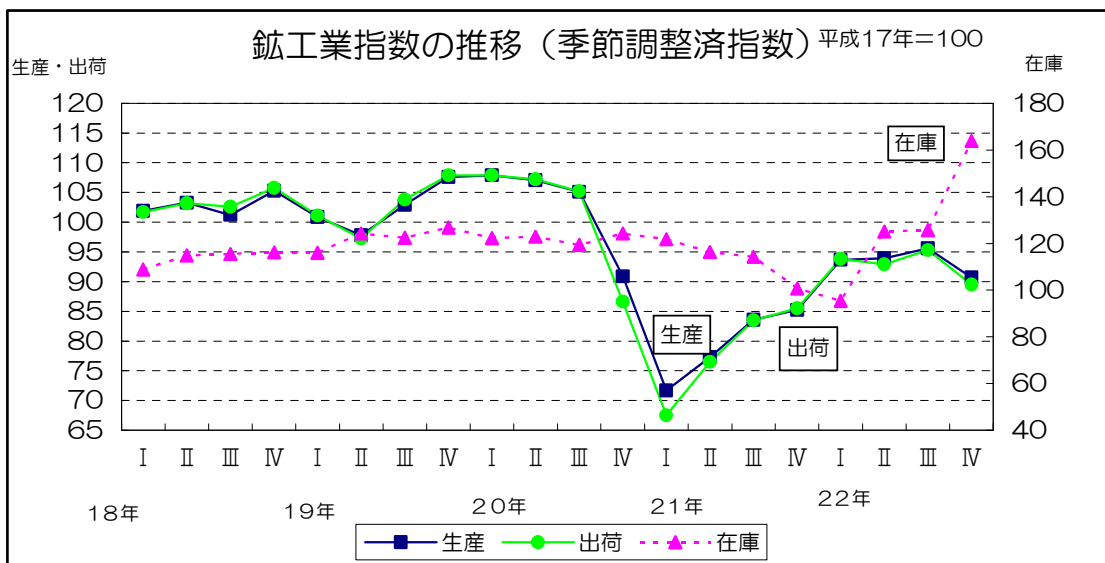
22年の生産指数は93.4で、前年比17.3%増と2年ぶりの上昇となった。業種別では、食料品・たばこ工業、非鉄金属工業など6業種が低下したものの輸送機械工業、鉄鋼業など11業種が上昇した。（横ばい1業種）

② 出荷

22年の出荷指数は92.8で、同18.4%増と4年ぶりの上昇となった。業種別では、食料品・たばこ工業、非鉄金属工業など6業種が低下したものの輸送機械工業、鉄鋼業など12業種が上昇した。

③ 在庫

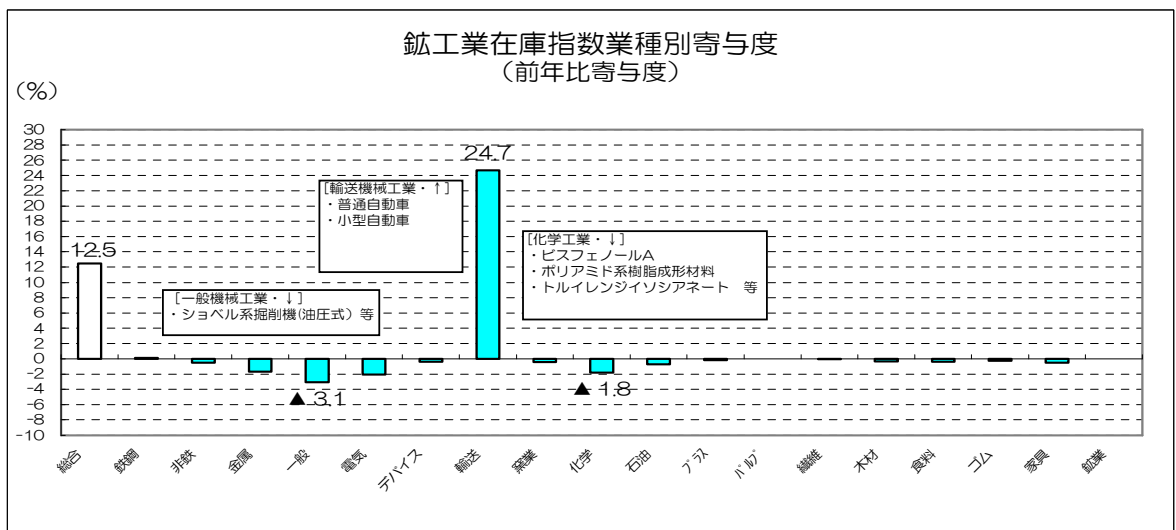
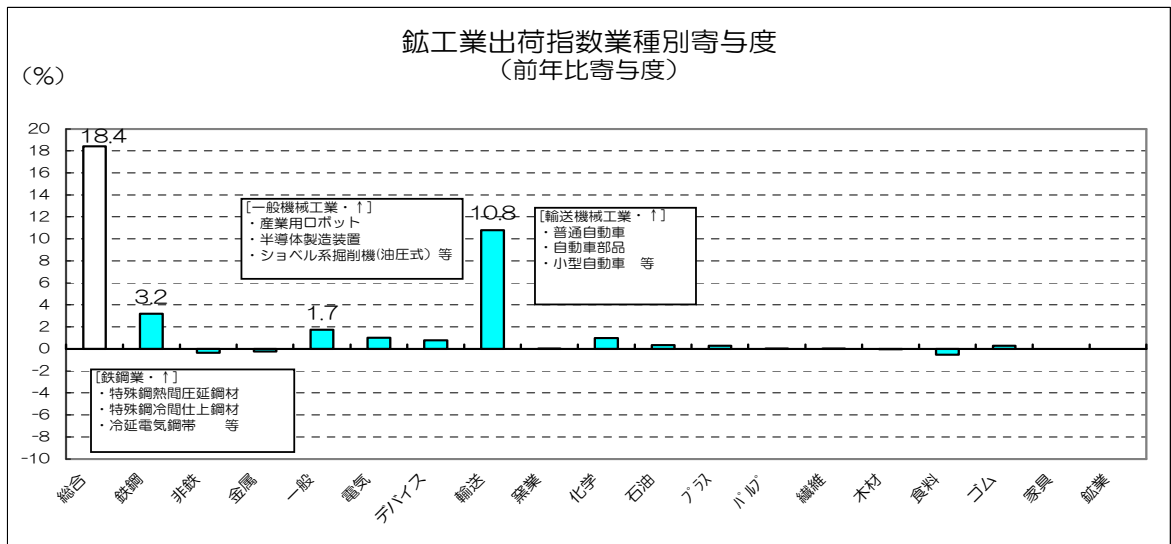
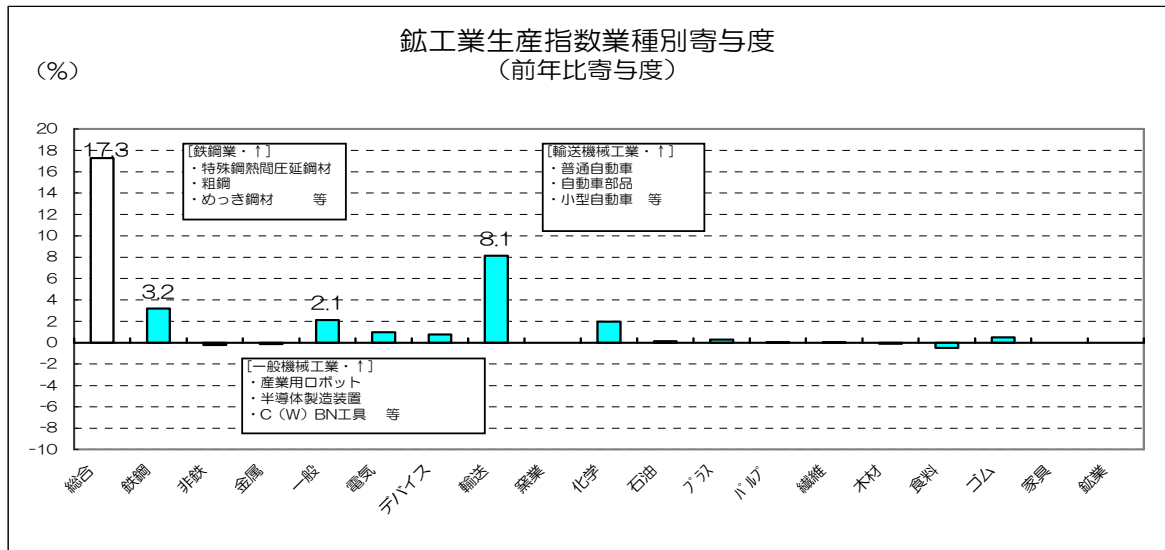
22年の在庫指数は127.5で、同12.5%増と3年ぶりの上昇となった。業種別では、一般機械工業、電気機械工業など15業種が低下したものの輸送機械工業など3業種が上昇した。



鉱工業指数の推移（年は原指数、四半期は季節調整済指数）

平成17年=100

	18年	19年	20年	21年	22年				
						I	II	III	IV
生産	102.6	102.4	102.7	79.6	93.4	93.7	93.9	95.6	90.7
前期(年)比	2.6	▲0.2	0.3	▲22.5	17.3	100	0.2	1.8	▲5.1
前年同期比	—	—	—	—	—	29.9	21.0	16.1	5.6
出荷	103.0	102.7	101.6	78.4	92.8	93.8	92.9	95.3	89.5
前期(年)比	3.0	▲0.3	▲1.1	▲22.8	18.4	9.7	▲1.0	2.6	▲6.1
前年同期比	—	—	—	—	—	38.4	20.9	16.0	3.7
在庫	113.8	122.3	122.1	113.3	127.5	95.4	125.1	125.7	163.9
前期(年)比	13.8	7.5	▲0.2	▲7.2	12.5	▲5.3	31.1	0.5	30.4
前年同期比	—	—	—	—	—	▲22.8	9.2	10.9	60.1



※枠内の品目については、各業種の上昇または下落に寄与した主な品目を掲載

(2) 財別動向（生産・在庫の詳細はp.42以降を参照）

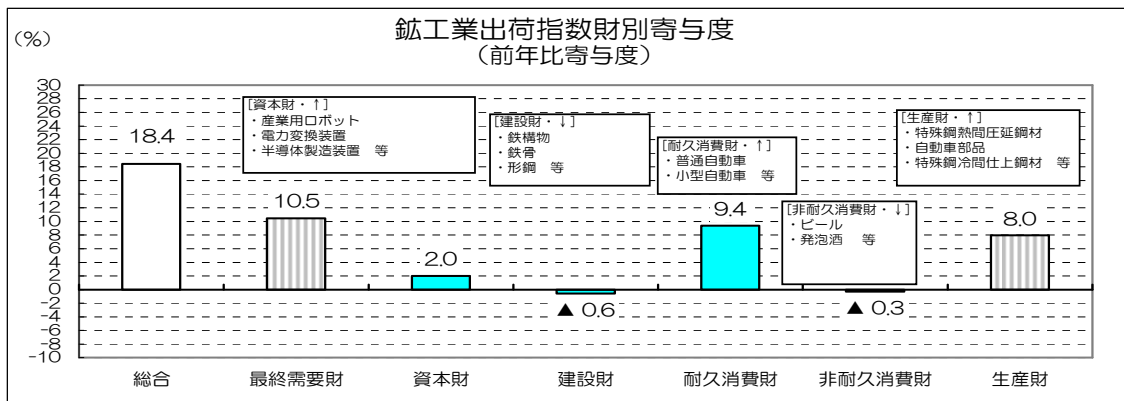
財別（＝用途別）の出荷指数を用いて、耐久消費財、資本財などの財の需要動向や、財の動きを通して最終需要の動きを把握することができる。

- 総合出荷指数は92.8で、前年比18.4%増と4年ぶりの上昇となった。最終需要財は同16.2%増と2年ぶりの上昇となった。生産財は同22.3%増と3年ぶりの上昇となった。
- 最終需要財のうち、資本財は、産業用ロボット、電力変換装置、半導体製造装置などが上昇したため同17.9%増で2年ぶりの上昇となった。建設財は、鉄構物、鉄骨、形鋼などが低下したため、同▲7.7%減で9年連続の低下となった。
- 耐久消費財は、普通自動車、小型自動車などが上昇したため、同36.3%増で2年ぶりの上昇となった。非耐久消費財は、ビール、発泡酒などが低下したため同▲1.6%減で3年ぶりの低下となった。

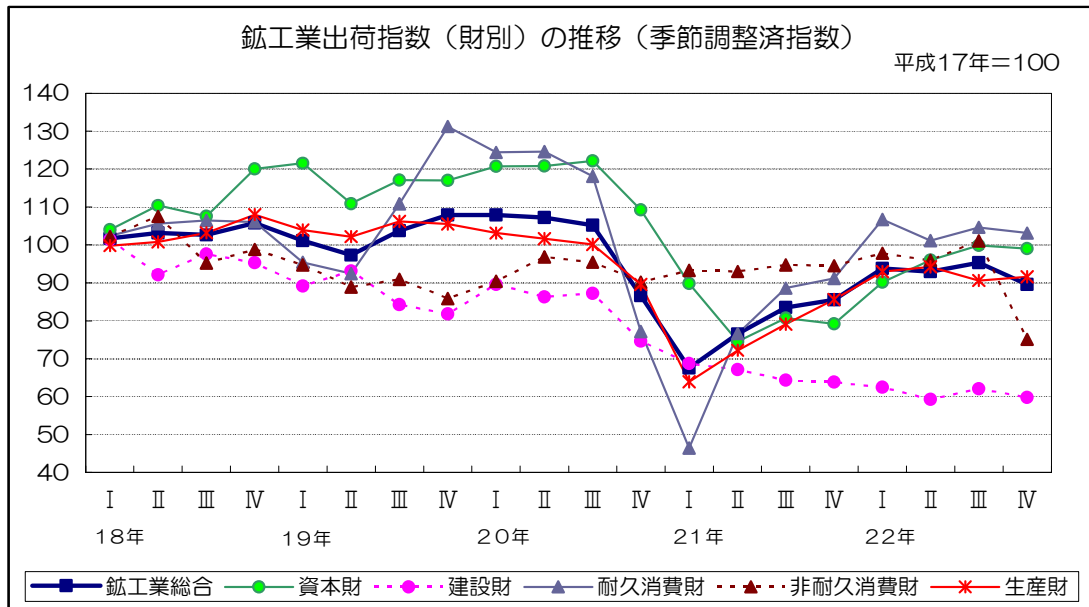
鉱工業出荷指数（財別）の推移（年は原指数、四半期は季節調整済指数）

平成17年＝100

	18年	19年	20年	21年	22年	I	II	III	IV
鉱工業総合	103.0	102.7	101.6	78.4	92.8	93.8	92.9	95.3	89.5
前期（年）比	3.0	▲0.3	▲1.1	▲22.8	18.4	9.7	▲1.0	2.6	▲6.1
前年同期比	—	—	—	—	—	38.4	20.9	16.0	3.7
最終需要財	103.2	101.6	103.4	80.1	93.1	94.3	92.4	97.5	88.7
前期（年）比	3.2	▲1.6	1.8	▲22.5	16.2	9.7	▲2.0	5.5	▲9.0
前年同期比	—	—	—	—	—	36.2	16.1	16.0	1.4
投資財	104.0	102.9	102.5	74.3	79.7	77.3	78.6	82.2	80.9
前期（年）比	4.0	▲1.1	▲0.4	▲27.5	7.3	7.8	1.7	4.6	▲1.6
前年同期比	—	—	—	—	—	▲2.6	9.5	13.3	10.8
資本財	109.9	116.8	118.4	81.5	96.1	90.2	96.0	99.9	99.0
前期（年）比	9.9	6.3	1.4	▲31.2	17.9	13.9	6.4	4.1	▲0.9
前年同期比	—	—	—	—	—	1.0	28.2	24.1	24.1
建設財	97.2	87.0	84.3	65.9	60.8	62.4	59.3	62.1	59.8
前期（年）比	▲2.8	▲10.5	▲3.1	▲21.8	▲7.7	▲2.2	▲5.0	4.7	▲3.7
前年同期比	—	—	—	—	—	▲8.6	▲12.3	▲2.9	▲6.8
消費財	102.8	101.0	103.8	82.8	99.3	102.4	98.5	104.5	92.7
前期（年）比	2.8	▲1.8	2.8	▲20.2	19.9	11.1	▲3.8	6.1	▲11.3
前年同期比	—	—	—	—	—	61.5	18.5	17.0	▲1.7
耐久消費財	104.4	107.9	110.3	76.0	103.6	106.7	101.1	104.6	103.1
前期（年）比	4.4	3.4	2.2	▲31.1	36.3	17.0	▲5.2	3.5	▲1.4
前年同期比	—	—	—	—	—	129.2	30.9	23.1	10.2
非耐久消費財	100.4	90.0	93.3	93.9	92.4	97.8	95.9	101.0	75.1
前期（年）比	0.4	▲10.4	3.7	0.6	▲1.6	3.5	▲1.9	5.3	▲25.6
前年同期比	—	—	—	—	—	4.7	3.4	7.9	▲21.4
生産財	102.6	104.5	98.5	75.5	92.3	92.9	94.2	90.6	91.6
前期（年）比	2.6	1.9	▲5.7	▲23.4	22.3	8.5	1.4	▲3.8	1.1
前年同期比	—	—	—	—	—	43.2	29.7	16.0	7.5

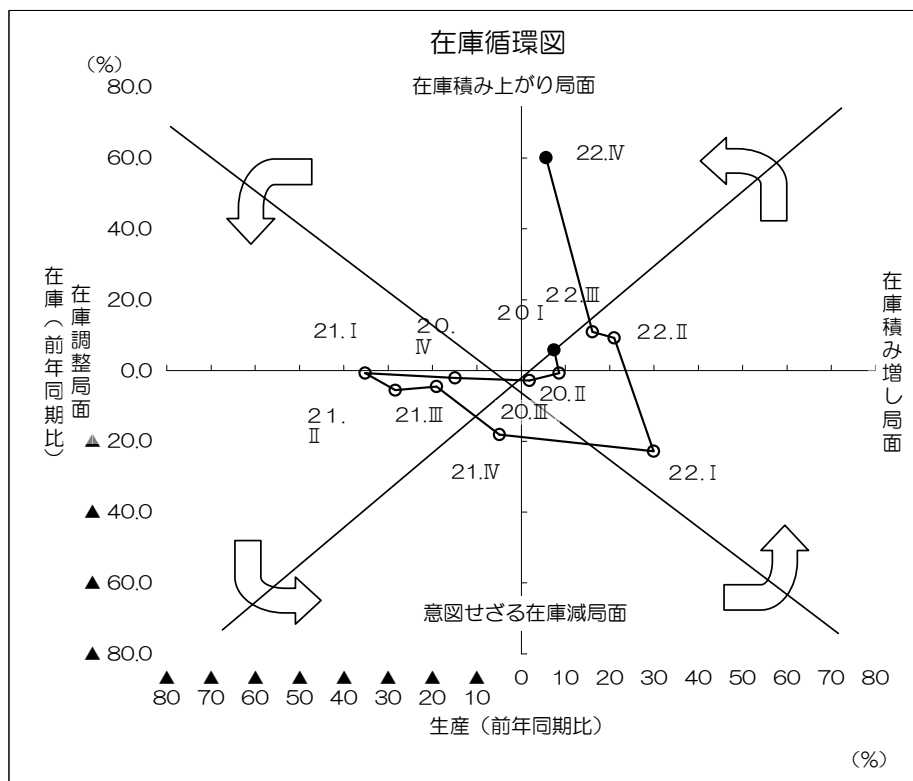


※枠内の品目については、財別の上昇または下落に寄与した主な品目を掲載



(3) 在庫循環図

在庫循環状況を見ると、22年は「意図せざる在庫減局面」から「在庫積み上がり局面」へ移行している。



※在庫循環図の見方  
 横軸に生産、縦軸に在庫の前年同月（期）比をとり、生産と在庫の関係から現状を判断する。  
 一般的に、右斜め上45°より下にあるときは景気の回復期で、上にあるときは後退期と考えられる。